

貿易収支

国際収支ベースの貿易収支と通関ベースの貿易収支の違い

はじめに

近年の日本経済は、個人消費などの国内需要が盛り上がりを欠くなか、これに替わって輸出が経済成長を引っ張っています。(図表1) 少子・高齢化に伴って国内需要の縮小が懸念されている日本経済が、輸出に依存する傾向は今後も続くものとみられます。そこで、今回は輸出入に関する統計のなかから貿易収支をとりあげました。

1. 貿易収支とは

貿易収支はモノの輸出から輸入を差し引いた額のことです。輸出は資金の受取、輸入は資金の支払となるため、輸出(受取額)が輸入(支払額)を上回る場合には貿易収支は黒字、その反対の輸出(受取額)が輸入(支払額)を下回る場合には貿易収支は赤字となります。日本はモノを作って世界に向けて輸出する貿易収支の黒字が経済成長の一因となってきています。貿易収支は、国際収支統計と貿易統計という二つの統計から公表されています。

2. 国際収支統計と貿易統計 (通関統計)

国際収支統計は、財務省・日本銀行により作成されており、モノの輸出入(貿易収支)に加え、旅行などのサービス取引(サービス収支)、直接投資や証券投資などの取引(所得収支)も含め、日本が外国との間で行った対外経済取引を網羅した統計です。国際収支統計の輸出入については、貿易統計を基礎データとしてIMF(国際通貨基金)のマニュアルに従って作成されています。

貿易統計は、日本の輸出入の動向を記録した統計で、財務省が公表しています。貿易統計は、輸出入される貨物が税関で通関手続きされる際に提出される輸出申告書等の各種申告書を基に毎月作成され、別名**通関統計**とも呼ばれています。地域(国)別、品目別に統計が公表されていますので、輸出入の動向をきめ細かく分析することができます。

3. 国際収支ベースの貿易収支と 通関ベースの貿易収支の違い

国際収支ベースの貿易収支と通関ベースの貿易収支は、輸出及び輸入の計上方法(図表2)が異なるため、以下の点で違いがあります。

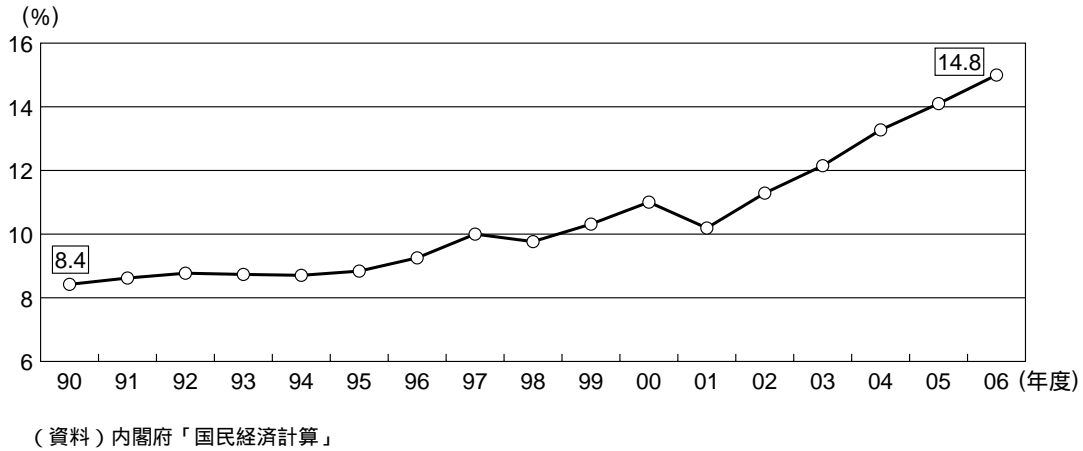
(1)計上時点による相違点

国際収支ベースでは、所有権の移転が発生した時点で輸出入が計上されます。一方、通関ベースでは、税関を通過した時点で計上され、輸出が出港時、輸入が承認時となっています。このため、所有権の移転を伴わない委託加工貨物の輸出入等は、通関ベースでは計上されますが、国際収支ベースでは計上されません。

(2)計上価格による相違点

国際収支ベースでは、輸出入はともに運賃や保険料を含まないFOB(Free on Board)価格で計上されます。一方、通関ベースでは、輸出が国際収支ベースと同じFOB価格で計上されますが、輸入は運賃や保険料を含むCIF(Cost, Insurance and Freight)価格で計上されています。このため、通関ベースの貿易収支は、国際収支ベースに比べて輸入にかかる運賃や保険料の分だけ縮小することになります。(図表3)

図表1．実質国内総生産に占める輸出のシェア



図表2．輸出及び輸入の計上方法（国際収支ベースと通関ベース）

	国際収支ベース	通関ベース（貿易統計ベース）
計上時点	所有権の移転が発生した時点	輸出：積載船舶または航空機が出港する日 輸入：輸入が承認された日
計上価格	輸出：FOB 価格 輸入：FOB 価格	輸出：FOB 価格 輸入：CIF 価格
FOB (Free on Board) 価格とは輸出国における船積み価格で、運賃や保険料を含まない CIF (Cost, Insurance and Freight) 価格とは貨物代金のほか仕向地までの運賃や保険料を含む		
計上範囲	居住者と非居住者との間で所有権が移転した財貨	税関を通過した貨物

図表3．輸出・輸入と貿易収支の推移

